

朝鮮人強制連行の歴史を光新を調査報告会開く

7月30日、農村環境改善センターで朝鮮人強制連行の歴史を掘る会（近藤伸生代表）の「朝鮮人強制動員被害についての共同報告会」がありました。

戦時中の強制動員被害を調べている韓国政府の真相究明委員会からホ・グアンム氏ら調査官6人も来町しました。



も報告がありました。同会では今秋、再び韓国国内で聞き取り調査を行うという事です。

同会では、当時の朝鮮人労働者の暮らしぶりや労働状況、町内に滞在していた方の名前などを調べています。当時の記憶をお持ちの方、当時の様子を聞いたことがある方は、会長の近藤さん☎8217050、塚田さん☎8214420、または役場企画総務課☎8212111（内線220）までご連絡ください。

小布施町議会の初視察

韓国側調査によって、東川、東神楽両町の忠別川遊水地造成工事で、中国人強制労働者とは別に、千170人も朝鮮人強制労働者が使役されていたことが新たに判明しました。ほかに江卸発電所（東川）、真動別発電所（上川）の建設工事も数千人規模の朝鮮人強制動員があったことが新たに調査報告されました。

歴史を語る会では今年3月、会員が韓国を訪れ、第2次世界大戦・日中戦争中、日本に強制連行されて働かされていた記憶を持つ88歳と87歳のお年寄り2人から聞き取り調査を行いました。会場では、その時の聞き取りの様子

7月28日、長野県小布施町議会（越将俊議長）の一行18人が視察に来町しました。

小布施町は長野盆地に位置し、千曲川を挟んで長野市、松川を挟んで須坂市、篠井川を挟んで中野市と接しています。市街地は、長野電鉄の電車軌道「おぶせ」駅を中心に古くから地域交通の要衝として恵まれています。

今年の出来秋は？ 町内で緊急の生育状況調査



天候不順で心配される町内農作物の生育状況を見るため、8月20日、「生育状況及び被害状況調査」が町内6カ所で行われました。

今年7月から8月にかけて長雨と天候不順が続く、2回の大雨にも見舞われました。そのため出来秋に向けて、基幹作物の水稲を中心に、天候不順の影響を調べるのが目的です。松岡市郎

町長、板谷重徳農協組合長、宮崎正志町農業委員会委員長、農業改良普及センター職員らが現地調査しました。既に穂に実が入り始めている登熟期の水稲は、上川管内で一般に4日程程度の遅れとみられています。しかし、この日の調査では、町内の地区によって生育状況に遅れが目立ち始めていました。

畑地では、ソバ、大豆、ブロッコリーなどに冠水、滞水被害も出ています。「今後ダイコンなどの野菜にヨトウガの被害が心配」という状況で、慎重な営農対策が必要であることを改めて実感していました。

一行は、写真の町の「写真甲子園」

「東川賞」、全国初の幼保一元化、芸術文化招へい委員会の活動ぶりを中心に、町づくりに対する取り組み説明を受け「同じように景観を大切にす町づくりを進めているので、写真の町づくりを通じた取り組みは興味深い」と話していました。

